市民と市長の

対話集会

- 住み続けたいまち -



2026.10 芦屋市

1 そもそもなぜ、**対話**なのか

2 **対話**の前に
知っていただきたいこと

3 みなさまとの**対話**

© 芦屋市 2026

なぜ、対話なのか

Why Dialogue?

1



© 芦屋市 2026



© 芦屋市 2026

市民と市役所は
対立ではなく、
共創する関係です

© 芦屋市 2026

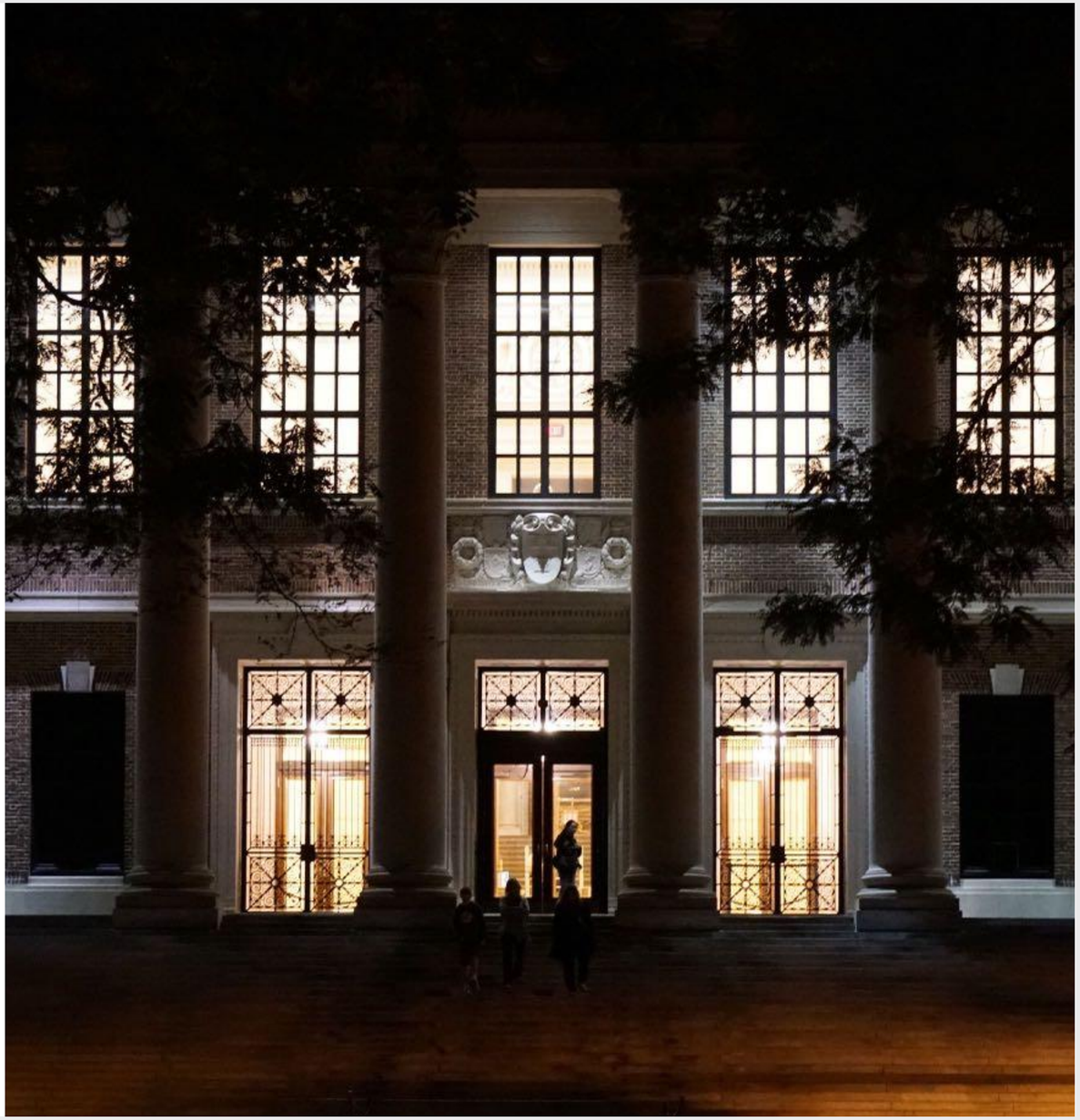
今回は、共創に挑戦します

© 芦屋市 2026

対話の前に、
知ってほしいこと

Before the Dialogue

2



© 芦屋市 2026

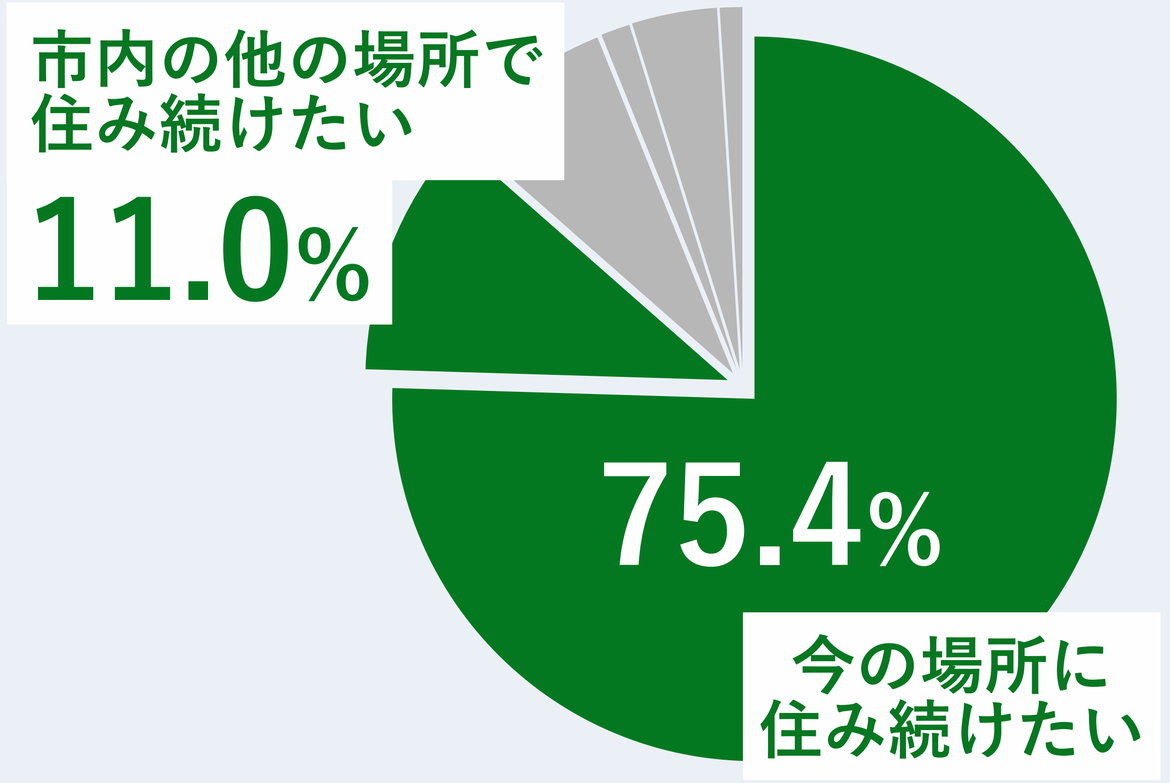
あなたにとって、
「住み続けたいまち」とは
なんですか。

© 芦屋市 2026

定住意向はとても高い傾向

総合計画を作る際の
市民アンケートでは、
市内に住み続けたい
という方は86.4%で、
市民の定住意向は
高い傾向にあります。

あなたは今のお住まいにずっと住んでいたいと思いますか（2024年）



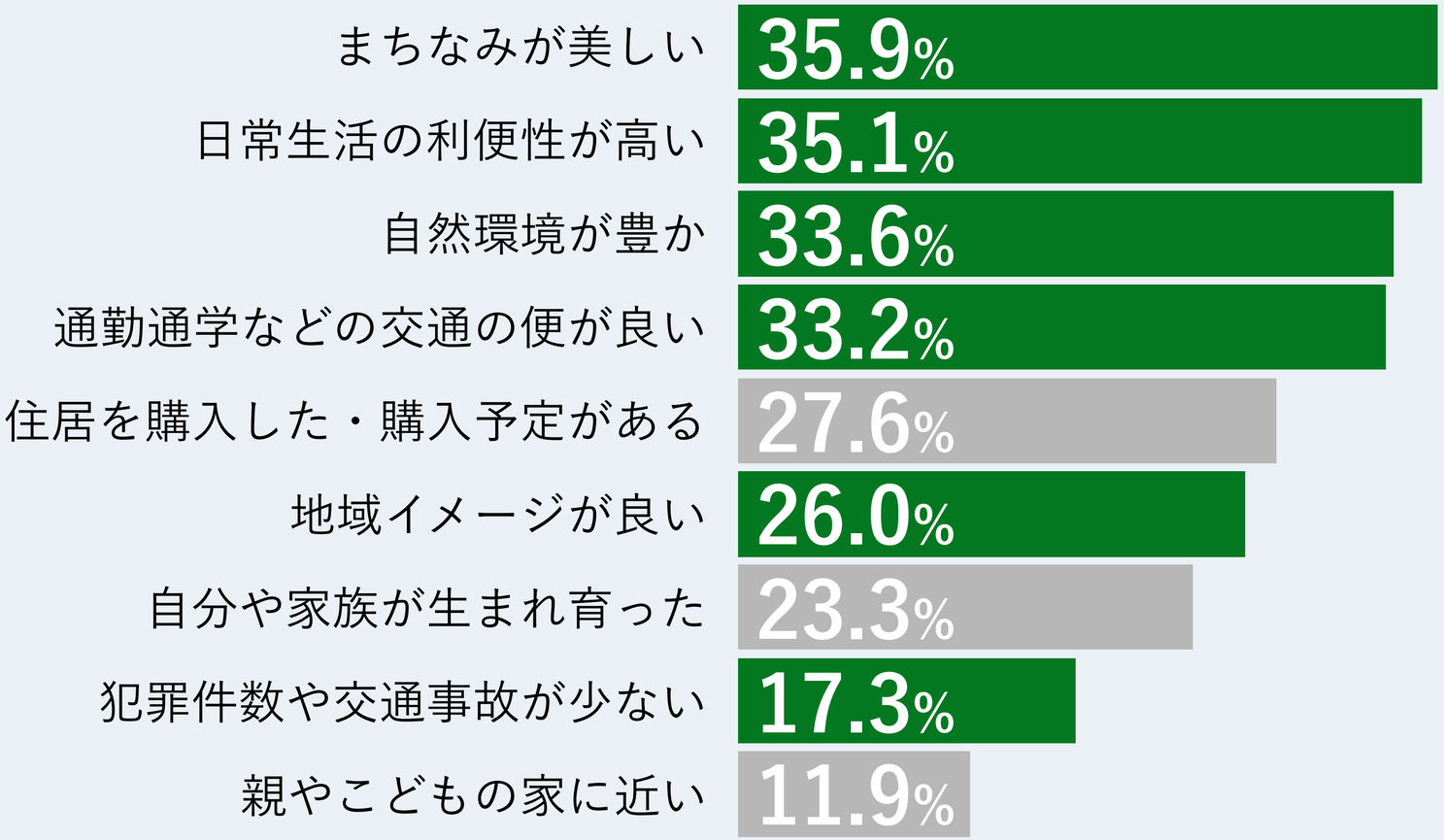
出典：「芦屋市総合計画策定に向けた市民意識調査報告書」（芦屋市, 2025）

© 芦屋市 2026

住宅都市としての高い評価

市民が市内に住み続けている理由の上位には、住宅都市として本市が大切にしてきた要素が挙がっています。

芦屋市に住み続けている理由（3つまで回答可）



＊上位のみ掲載。個人の状況に依存しない、市の特徴に関係する理由を着色した

出典：「芦屋市総合計画策定に向けた市民意識調査報告書」（芦屋市, 2025）

© 芦屋市 2026

みなさまとの対話

Dialogue with You

3



© 芦屋市 2026

つくりたいのは、

要望の場ではなく

対話の場

© 芦屋市 2026

「住み続けたいまち」とは、単なる要素の集合ではなく市民の想いの集合のはず

© 芦屋市 2026

あなたが「住み続けたい」と感じた瞬間は何ですか。エピソードを記してください

1

例）帰宅途中、芦屋川沿いを風に吹かれながら歩いているとき。夜でもこんなに安心して歩ける！

例）こどもがごみを自然に拾っていたのを見たとき。

© 芦屋市 2026

「住み続けたい」と感じたエピソードを周りの方と共有してください

2

© 芦屋市 2026

全てのエピソードを踏まえ、みんながうなずけるような「住み続けたいまち」を見つけてください

3

例）「交通の便がよい」等の単なる要素ではなく
「～～と思えるまち」のような形式で

© 芦屋市 2026

各グループで話したことを全体に共有してください。最後に全体で対話します

4

© 芦屋市 2026

最後に、参加者のみんながなるほど！と思える「住み続けたいまち」の説明を作りましょう

5

© 芦屋市 2026

お願いしたいこと

🌱 知らなくて当たり前。みんなで学び合おう！

🤝 違っていて当たり前。否定より提案を。

🗣️ 話は短く。「普通は」ではなく「私は」で。

❤️ 話をつなげる！対話を楽しみましょう！

© 芦屋市 2026

参考資料

© 芦屋市 2026

01 芦屋市はどんなまち？

第5次総合計画後期基本計画をつくるにあたり、市民意識調査や出張講義・大学生へのアンケート、転入された方へのアンケートなど、様々な機会を通じて、多くの方々から「芦屋市はどんなまち？」という思いを聞かせていただきました。

誰もが健康でいられる
支援の充実

気軽に行ける遊び
場が増えてほしい

充実した、子育て
しやすい環境

静かで落ち着いた、
まちの雰囲気

坂道が多くて
移動が大変

趣のある、歴史や文化

世代を超えてつながる、
交流の機会

守られている
美しいまちなみ



© 芦屋市 2026

02 市民の皆さまの声を聴き、創り上げました



総合計画審議会

学識、市民団体代表、市議会議員、市民委員で成る審議会で自由闊達に意見を交わし、計画原案を作成していただきました。



アンケート・講義

市民の皆さまへのアンケートのほか、本市と包括連携協定を締結している大学で、アンケートを伴う授業を実施しました。

© 芦屋市 2026

03「住み続けたいまち」であり続けるために

少子高齢化や人口減少が進む中、その影響は芦屋市でも身近になってきました。
それでも、まちはこれからも続いていきます。
良いところは守り、課題にも向き合いながら、
新しい魅力を加えて、芦屋市を次の世代へつないでいきたい。

その想いを形にしていくのが、総合計画です。



© 芦屋市 2026

04 総合計画とは

まちづくりを進めるうえで最も大切な計画です。

芦屋市がこれから目指すまちの姿と、
そのための取組をまとめた計画です。

市が進めるさまざまな取組の、一番の
もとになる「まちの設計図」と言えます。



© 芦屋市 2026

05 総合計画のめざすまちの姿

目指す姿　人がつながり　誰もが輝く　笑顔あふれる住宅都市

国際文化住宅都市として先人が築いてきた芦屋。住環境や暮らしに根付く文化、地域のネットワークなど、 芦屋市ならではのまちの良さを受け継ぎながら、みんなで未来を共有し、力を合わせることで、住宅都市としての強みを磨き、さらなる魅力を創ります。

キャッチフレーズ　ASHIYA SMILE BASE

笑顔があふれる市民みんなのホームタウンをイメージし、将来像をコンパクトに表現しました。市民、行政がともに総合計画に関わり、将来像を実現していくためのキャッチフレーズです。

© 芦屋市 2026

06 総合計画の施策体系

目指すまちの姿の実現に向けて、
６つの施策分野ごとに施策目標を設定し、取り組みを進めています。

01 子育て・教育

- 誰もが安心して生み育てられる環境が充実している
- 未来への道を切り拓く力が育っている
- 生涯を通じた学びの文化が醸成されている



02 福祉健康

- あらゆる人が心地よく暮らせるまちづくりが進んでいる
- 健康になるまちづくりが進んでいる



03 市民生活

- 良好な生活環境が整い魅力的な暮らしが創出されている



04 安全安心

- 災害に強いまちづくりが進んでいる
- 日常の安全安心が確保されている



05 都市基盤

- 住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている
- 持続可能なインフラ整備が進んでいる



06 行政経営

- 協働の意欲が高まり市民主体のまちづくりが進んでいる
- 人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている
- 急速な社会変化に対応できる組織になっている



© 芦屋市 2026

07 後期基本計画で重視する３要素



学び

市民一人ひとりの生涯にわたる成長を促し、多様な人々と学びあう中で変化の激しい社会に対応するための関係性を培い、未来を切り拓く力を育む基盤

文化

地域の魅力を高め、市民の誇りや愛着を醸成し、人の交流と地域の活性化をもたらす活力の基盤

協働

様々な課題解決や新たな取組に向けたまちづくりの基盤

© 芦屋市 2026